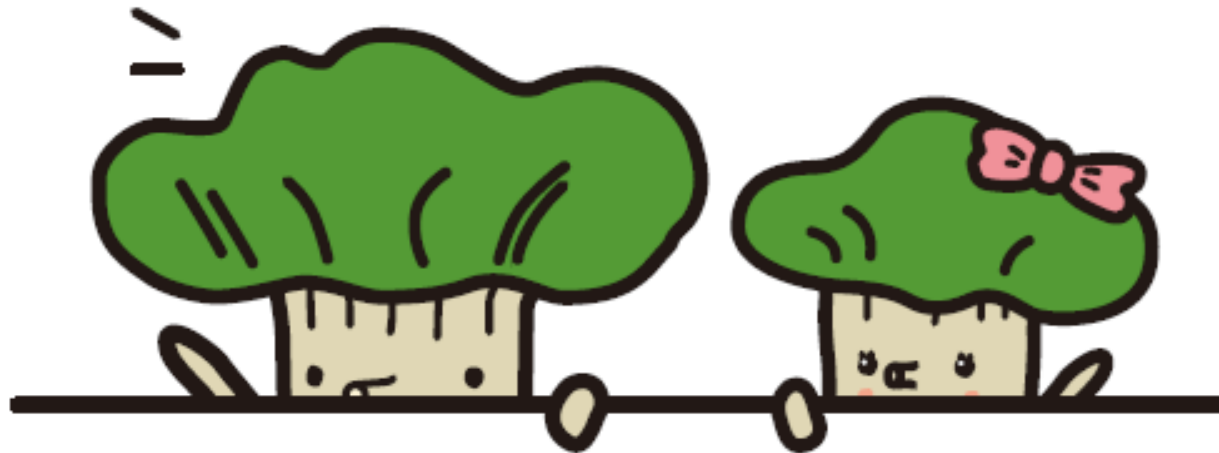


2026年3月期 決算 決算概況と今後の事業展開について



つなぐを化学する
荒川化学工業株式会社

2026.6.1

代表取締役社長執行役員 高木 信之 / 常務取締役執行役員 延廣 徹 / 取締役執行役員 富宅 伸幸

目次

- 1 決算概況と今期予想
- 2 セグメント別情報など
- 3 第6次中期5カ年経営実行計画

1

決算概況と今期予想

為替レート	2025年度想定	2025年度実績	2026年度想定
USD	150.00円	149.78円	150.00円
EUR	160.00円	169.53円	170.00円
RMB	21.00円	20.87円	21.00円

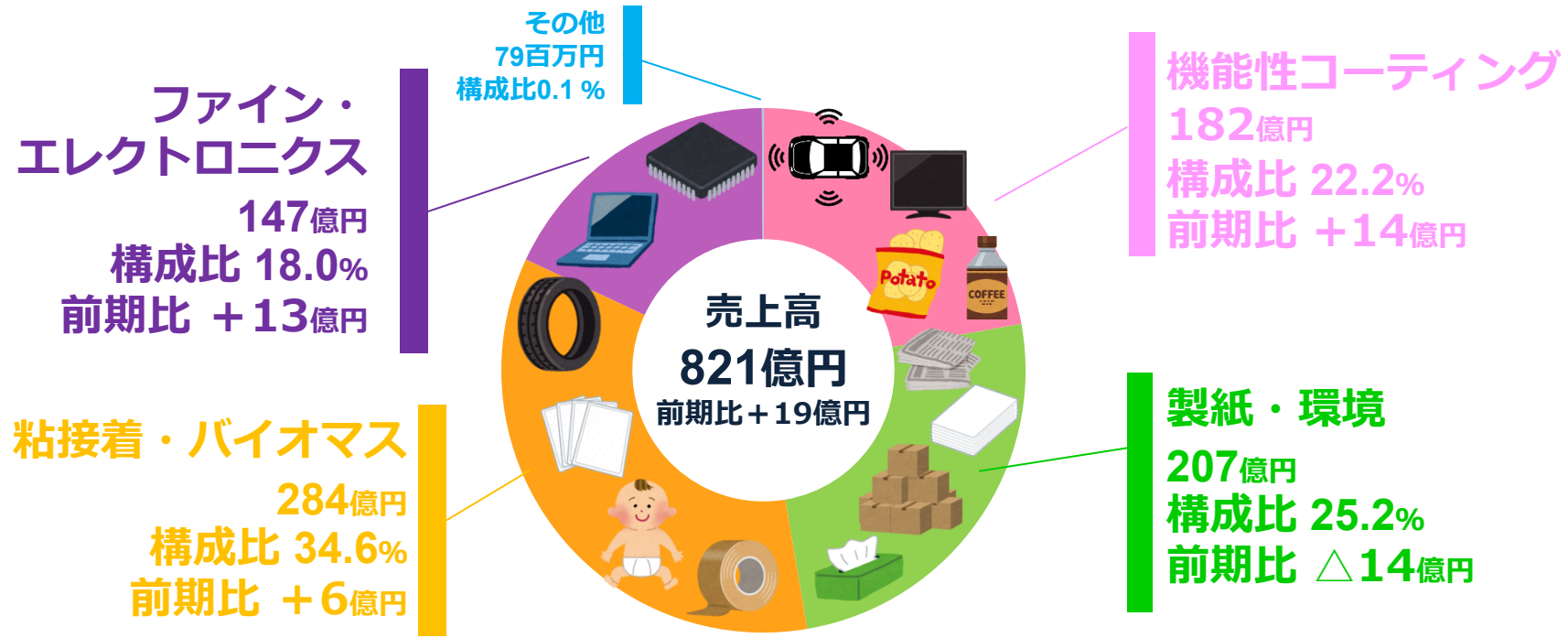
決算概況と今期予想

(百万円)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (予想)
売上高	80,515	79,431	72,222	80,236	82,135	87,000
営業利益	3,304	△2,907	△2,617	1,057	2,500	3,300
経常利益	3,566	△2,687	△2,412	854	2,390	2,800
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,502	△4,941	△1,042	2,644	2,201	2,250
EBITDA	6,500	1,569	3,190	6,778	8,088	8,600
ROE	2.6%	△8.7%	△1.9%	4.6%	3.6%	3.6%
ROIC	3.0%	—	—	0.9%	2.0%	2.6%
配当	48円	48円	48円	49円	50円	55円

2025年度 実績	<ul style="list-style-type: none"> ■売上高・EBITDAともに過去最高を更新し、本業は増収増益 ■純利益は前期計上の固定資産売却益（約10億円）の反動減益も、実質増益を確保 ■電子材料領域（電子部材、データセンター・AI関連材料、半導体関連材料等）の販売は過去最高を記録
2026年度 予想※	<ul style="list-style-type: none"> ■売上高・EBITDAは2期連続で記録更新を予想 ■電子材料領域での生産能力増強が業績に寄与し、全利益項目で増益を計画 ■千葉アルコン製造の稼働改善により、粘接着・バイオマス事業黒字化へ道筋 ■配当金は前期比10%増（+5円）となる年間配当55円を予定

※中東情勢に関連するコスト上昇分については価格転嫁に努めておりますが、一定の仮定に基づき利益の押し下げを業績予想に織りこんでおります。一方で、原料や副資材などの供給量や顧客動向の変化については業績予想に織り込んでおりません。

セグメント別売上高



機能性コーティング	光硬化型樹脂、熱硬化型樹脂、印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂 等
製紙・環境	紙力増強剤、サイズ剤、新規水系ポリマー 等
粘接着・バイオマス	水素化石油樹脂、粘着・接着剤用樹脂、超淡色ロジン、 合成ゴム重合用乳化剤 等
ファイン・エレクトロニクス	精密部品洗浄剤および洗浄装置、低誘電ポリイミド樹脂、 ファインケミカル製品、電子材料用配合製品、精密研磨剤 等

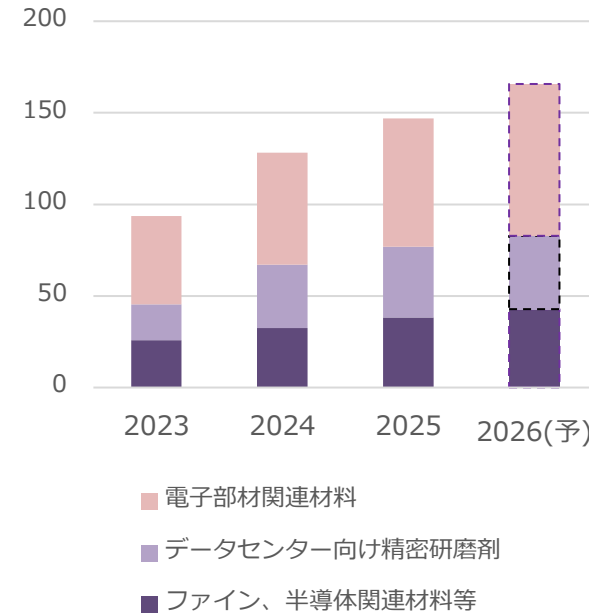
営業利益の推移

項目	2024年度		2025年度		2026年度（予想）	
	百万円	増減（%）	百万円	増減（%）	百万円	増減（%）
営業利益	1,057	黒字転換	2,500	136.4	3,300	32.0
セグメント利益合計	1,732	黒字転換	3,121	80.2	4,240	35.8
機能性コーティング	1,219	134.2	2,203	80.6	2,400	8.9
製紙・環境	1,849	38.1	1,381	△25.3	1,100	△20.4
粘接着・バイオマス	△2,241	赤字縮小	△1,400	赤字縮小	△400	赤字縮小
ファイン・エレクトロニクス	847	黒字転換	895	5.7	1,100	22.8

ハイライト

- 機能性コーティングおよびファイン・エレクトロニクスセグメント**
 機能性コーティングの電子部材関連材料、ファイン・エレクトロニクスの精密研磨剤や半導体関連先端材料等が伸長し、電子材料領域を中心に両セグメントの増益を牽引。
- 製紙・環境セグメント**
 グローバルに販売地域を拡大中も、中国発の価格競争の激化により、収益面では厳しい環境が当面続く。抜本的な生産プロセス変革プロジェクトを立ち上げ、事業拡大と収益性回復の両立狙う。
- 粘接着・バイオマスセグメント**
 千葉アルコン製造の稼働改善や製造拠点の統廃合による収益性の改善により赤字縮小。さらなる稼働改善により黒字化へ道筋。

電子材料領域の売上推移（億円）

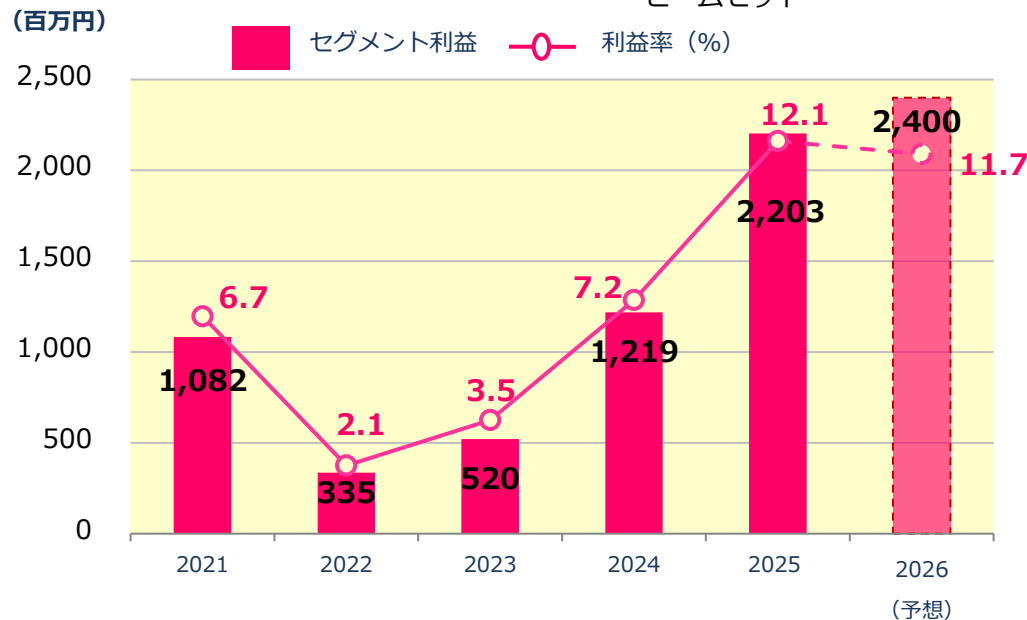
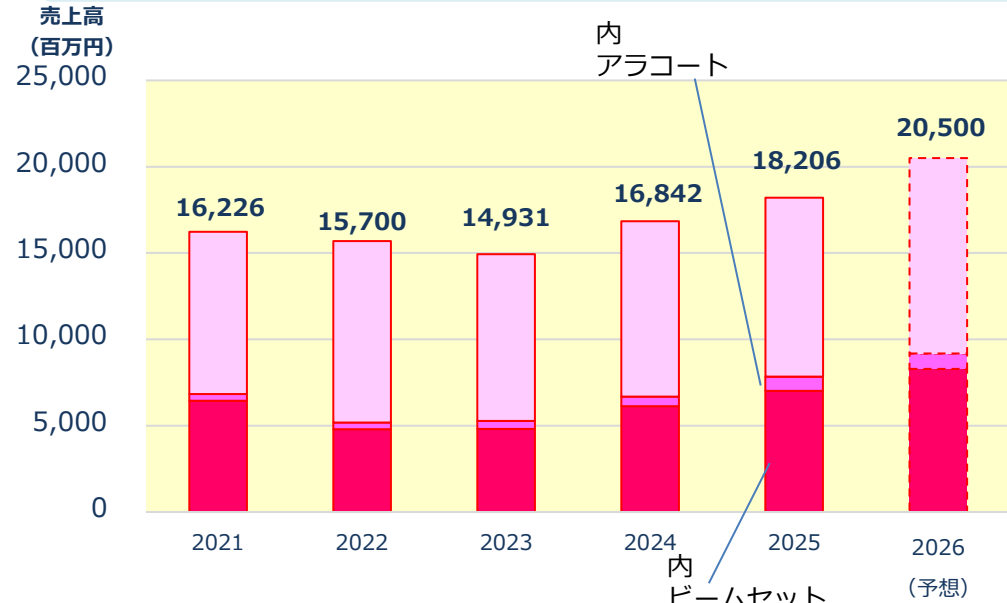


2

セグメント別情報など

増収増益

機能性コーティング事業



2025年度実績

■ 光硬化型樹脂 (ビームセット) は、AIサーバーやスマートフォン、ディスプレイ関連分野での需要が伸長したことで、販売が増加

2026年度見通し

■ 主力製品である光硬化型樹脂の需要が好調に推移する見込みであり、熱硬化型樹脂 (アラコート) も更なる拡販を見込む

光硬化型樹脂 (ビームセット・オプスター)



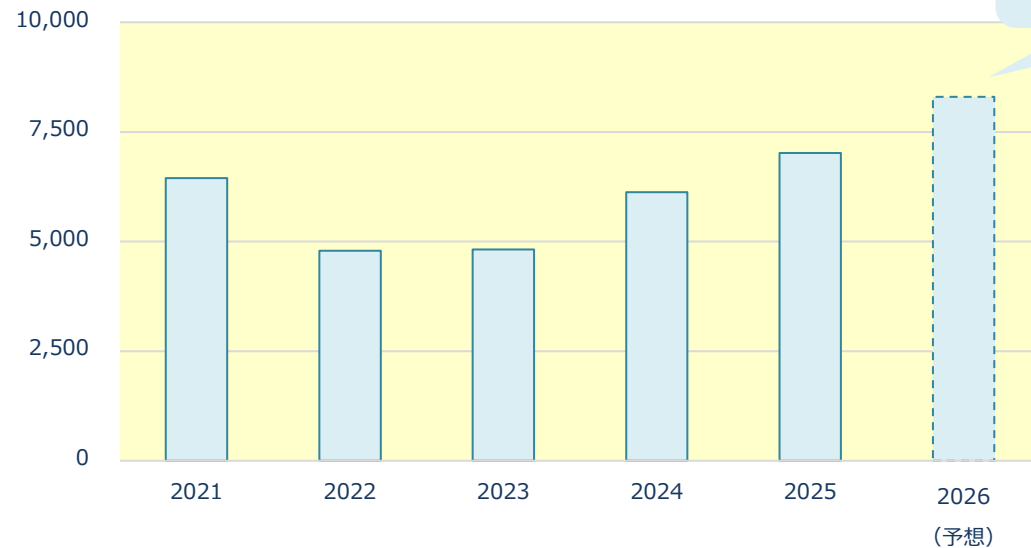
 : サステナビリティ製品

機能性コーティング

- 光で瞬時に固まり、省エネルギー、環境負荷低減 (VOC削減)
- 事業領域 : スマートフォンなどのディスプレイのハードコーティング材料、光学粘着剤、帯電防止コーティング剤、IC (集積回路)、電子部材 (AIサーバー向けなども含む)
- 事業環境 : 世界のスマートフォン (5G対応) の出荷台数は2030年には15億6,941万台まで拡大する見通し (総務省 令和7年版 情報通信白書)
- 要求特性を実現する樹脂設計と配合技術力
- フィルムコーティングの高機能化に
- 生産能力増強 : 富士工場の新設備 量産化体制の構築を完了



売上高
(百万円)



2期連続で
過去最高更新見込む

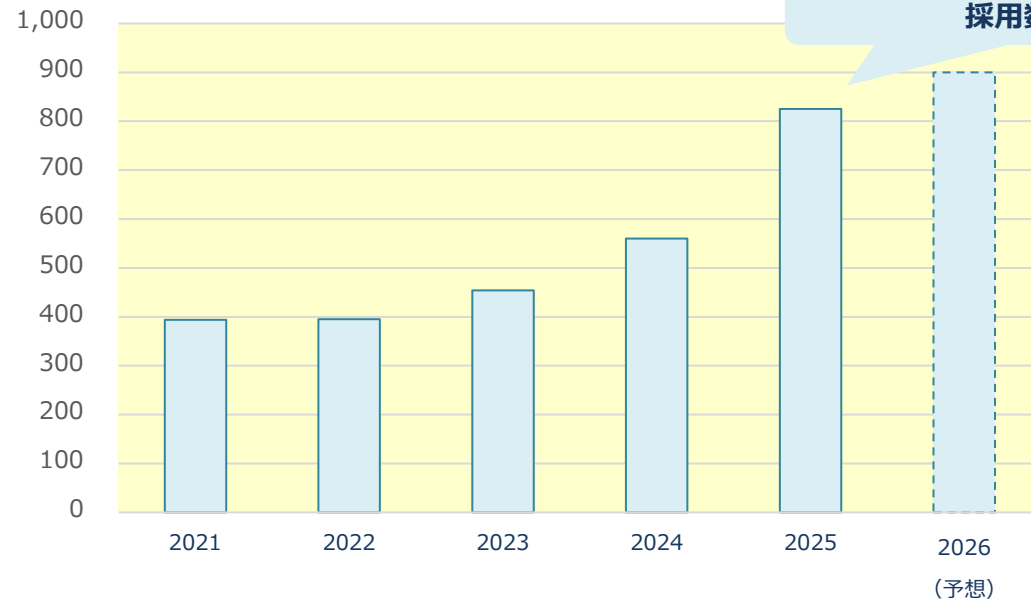


熱硬化型樹脂 (アラコート)

機能性コーティング

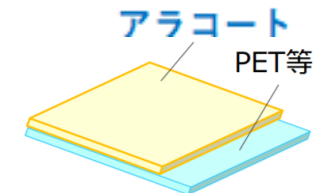
- 長年のインキ・塗料分野で培った**高分子合成技術、二液硬化技術、配合技術**を駆使して開発した**熱硬化型機能性コーティング剤**
- フィルムコーティングの**高機能化**に
- 「機能」を追求し、**多様化するニーズに適した「ソリューション」**を提案
- ★ 独自の分子設計によるシリコン同等の軽剥離性の実現と、環境負荷低減への貢献が評価され、「第78回化学・環境技術賞」を受賞（一般社団法人 近畿化学協会）

売上高
(百万円)

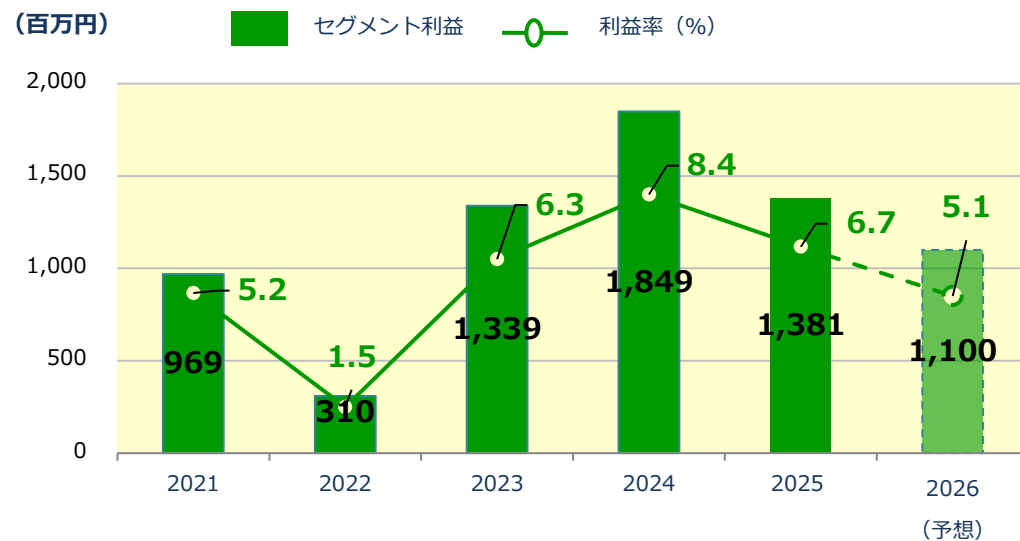
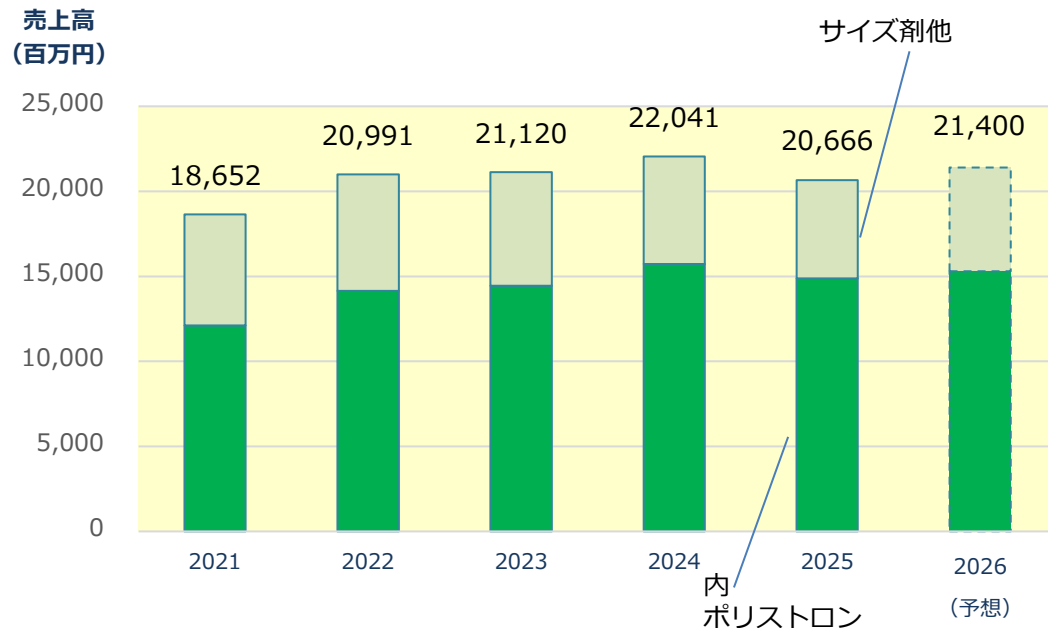


技術力を背景としたカスタマイズで
採用数の増加

(層構成例)



- 帯電防止コーティング剤
- 離型コーティング剤
- UVコーティング用アンカー剤
- 蒸着用アンカー剤
- 熱硬化型自己修復コーティング剤



2025年度実績

■ 板紙向け紙力増強剤 (ポリストロン) の生産量は、国内で前年を下回る水準が続き、海外（中国、アジア地域）での価格競争激化により、収益を押し下げた

2026年度見通し

■ 海外での競争環境が一層厳しさを増すと予想しているものの、引き続き海外での紙力増強剤などの販売増加や国内での収益性改善に努める

紙力増強剤 (ポリストロン)



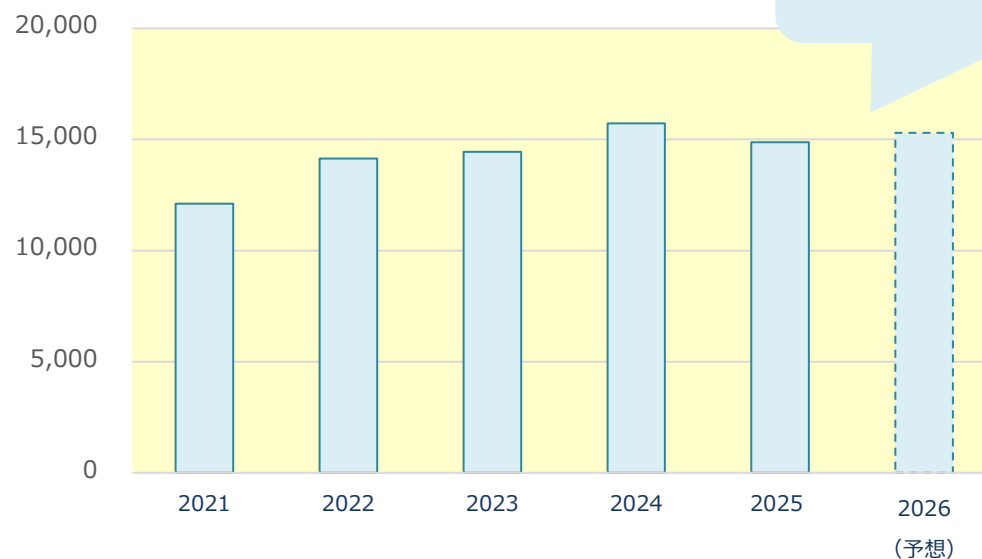
製紙・環境

 : サステナビリティ製品

- パルプ繊維同士をつなぎ、紙の力を向上させる
- ポリアクリルアミド (PAM) 系紙力増強剤の拡大
⇒ 販売地域を中国・台湾からASEANに拡大し、**古紙リサイクル促進に貢献**
- 荒川ケミカルベトナム社が2022年3月に稼働し、ベトナムを中心にASEAN向けに利益貢献



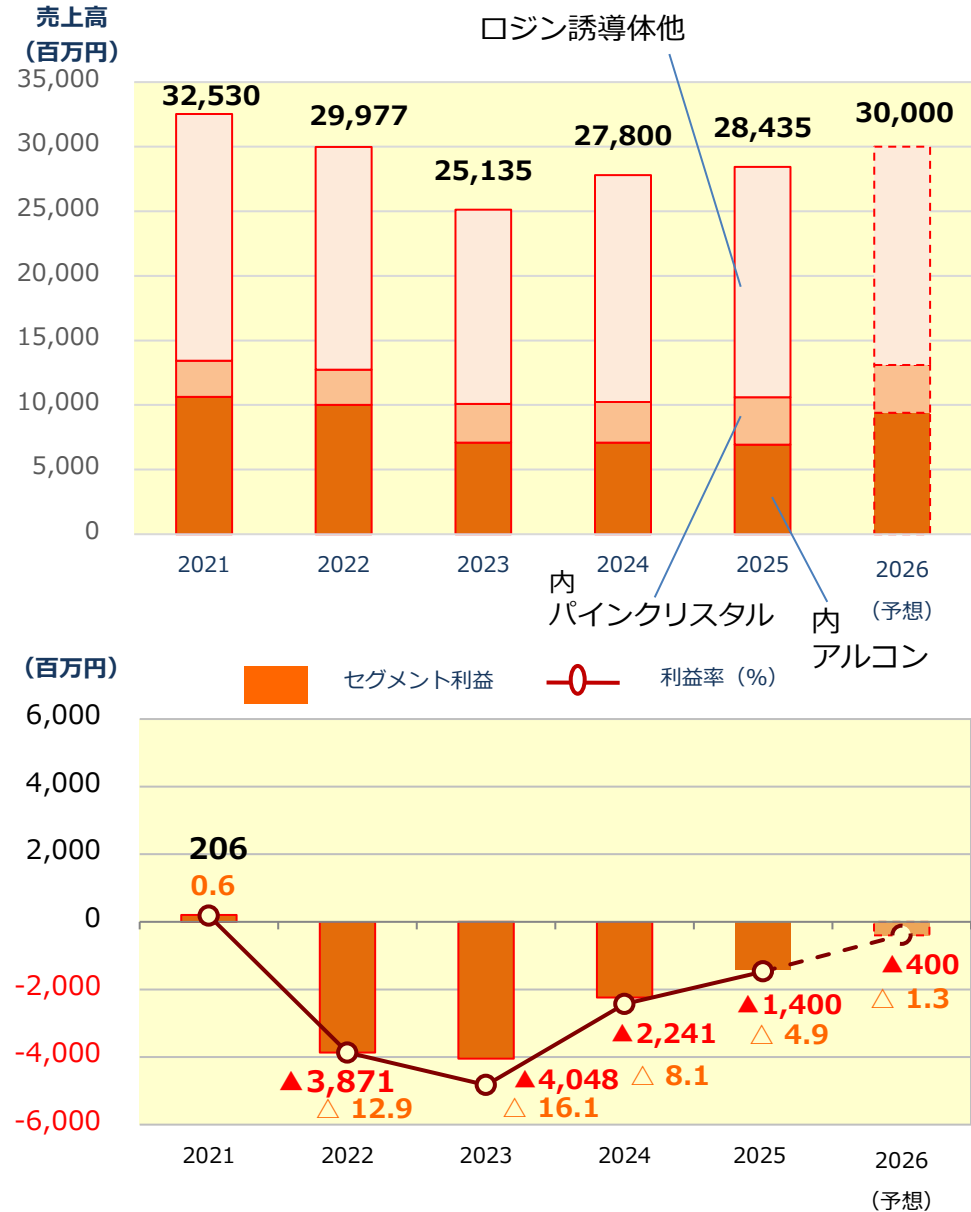
売上高
(百万円)



海外 (中国、アジア地域) での
価格競争は厳しさが続く

- 板紙向け紙力増強剤
⇒ 段ボールの薄型化に対応
- 上質紙・コート原紙等の洋紙
まで幅広い用途に使用





2025年度実績

- ロジン系の粘着・接着剤用樹脂は、製造拠点の統廃合により収益性を押し上げ、またアジア地域を中心に販売が堅調に推移
- 水素化石油樹脂 (アルコン) は、千葉アルコン製造(株)の稼働率が改善し、欧州につづき米国向けにも安定的な供給を開始

2026年度見通し

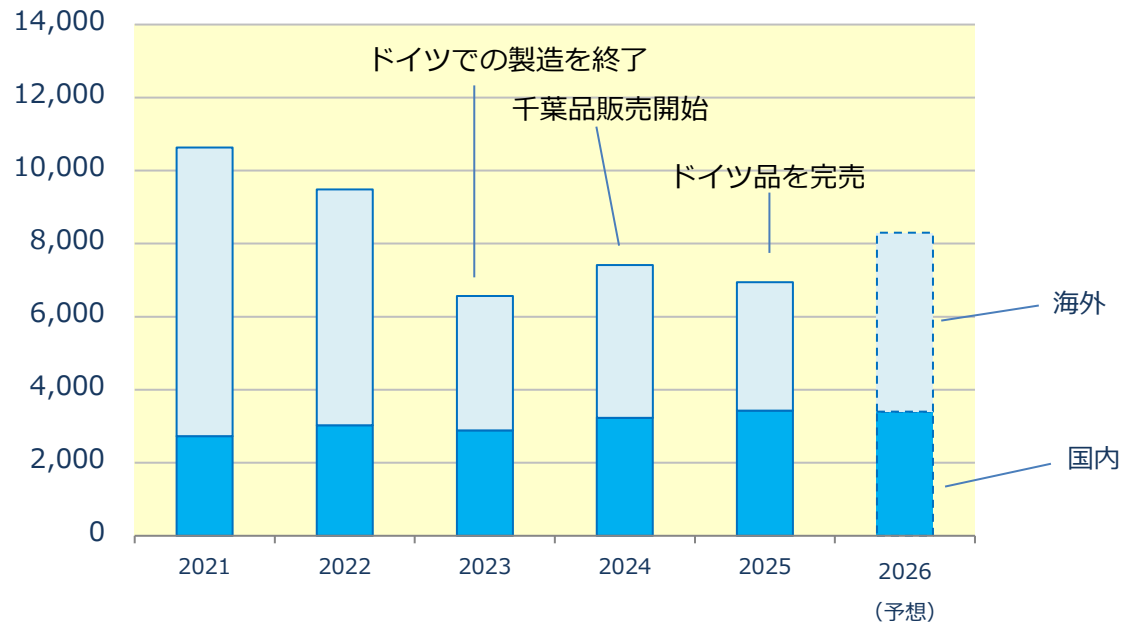
- 粘着・接着剤用樹脂の需要は、中国で堅調に推移する見込み
- 水素化石油樹脂は、さらなる稼働率の改善を見込む

水素化石油樹脂 (アルコン)

粘接着・バイオマス

- グローバル需要：人口増加や経済成長を背景に今後も拡大見込み
- 供給体制：千葉アルコン製造(株)の稼働率は6割に改善（前年同期3割）し、欧米向けに安定的供給を開始。定修中の改善策で、**2026年度7～8割**、2027年度にフル稼働へ
- 需給環境：中国で新增設が相次ぎ汎用品は供給過剰も、欧米同業の生産再編により**需給バランスは改善傾向**
- 用途展開：C9留分の特徴を活かし、**医療用貼付剤や改質用途などで展開**

売上高
(百万円)



▼水素化石油樹脂「アルコン」(1965年上市)
無色無臭の白物樹脂として世界で初めて工業化に成功



- 医療用貼付剤
- フィルム改質向けの高付加価値用途

ロジン誘導体 (パインクリスタル・ロジンエステル等)



粘接着・バイオマス

: サステナビリティ製品

■ロジンエステル：アジアで堅調

バイオマス素材として貢献、訴求していく

■パインクリスタル

琥珀色のロジンを高圧水素化技術により**ほぼ無色、不純物が少ない熱安定性がよい**製品

鉛フリーはんだ用フラックスの**業界標準**、**ライフサイエンス**分野にも展開

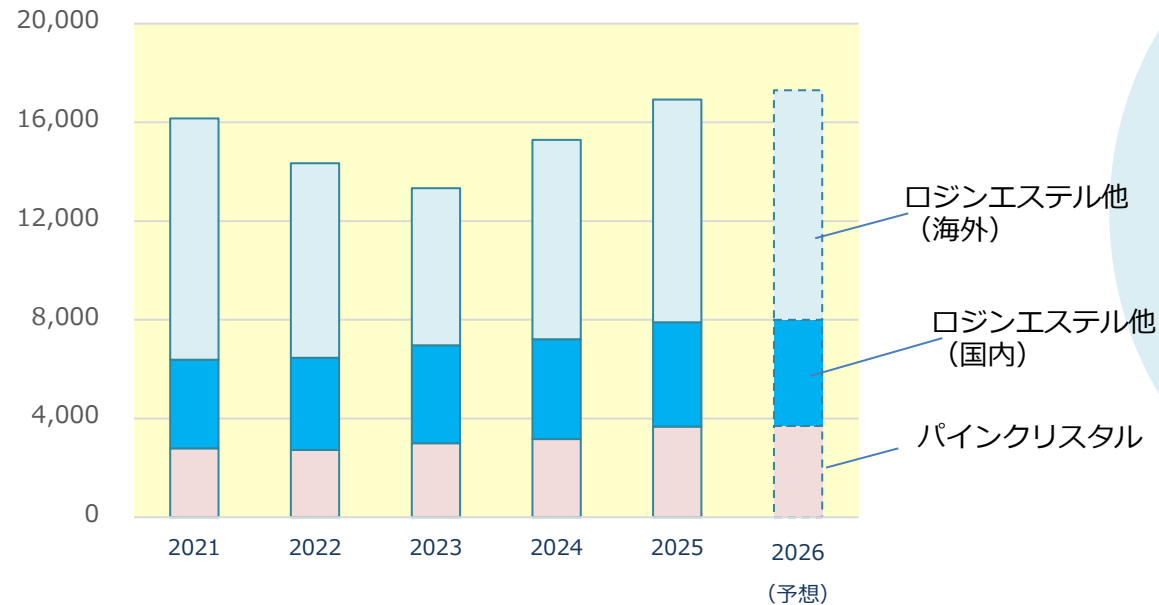
■樹脂エマルジョン

高い乳化技術による高品質な**業界で高いシェアを誇る**製品

低VOC製品環境負荷低減や高軟化点、高耐水性製品などラインナップ



売上高
(百万円)



■鉛フリーはんだ用フラックス



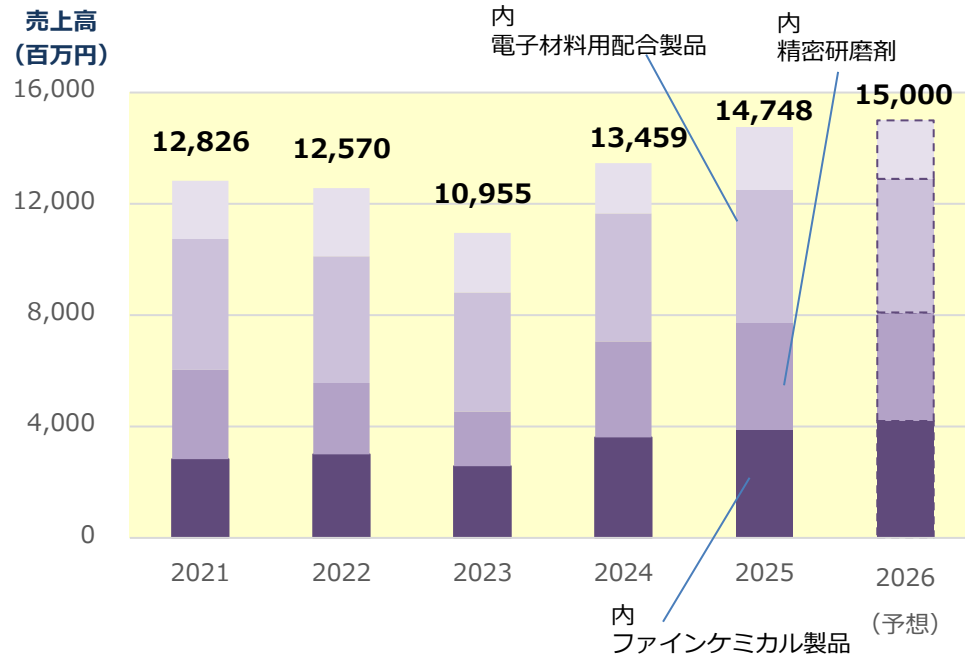
■3Dプリンター関連部材
■光学フィルム関連部材



■食品ラベル、包装材料、
建材・自動車向けテープ用粘着剤



■医療用貼付剤

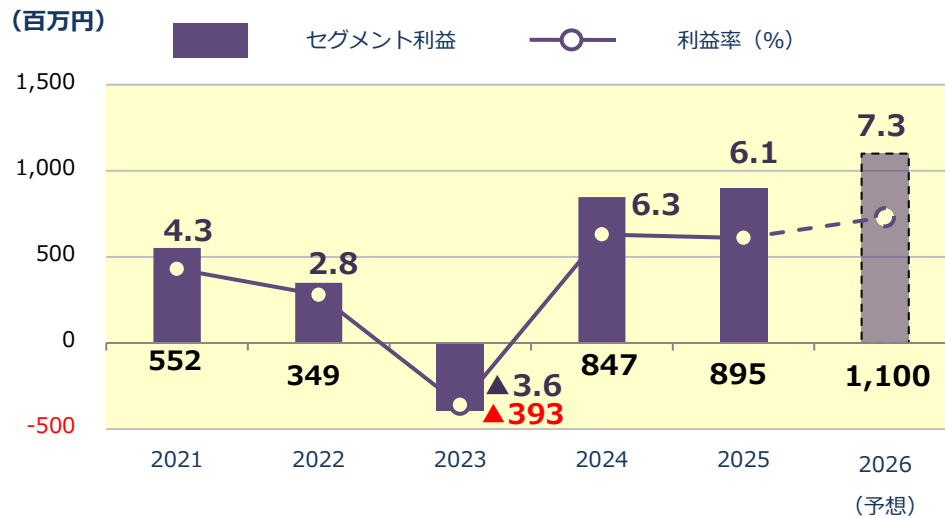


2025年度実績

- ファインケミカル製品とハードディスク用精密研磨剤の販売は過去最高

2026年度見通し

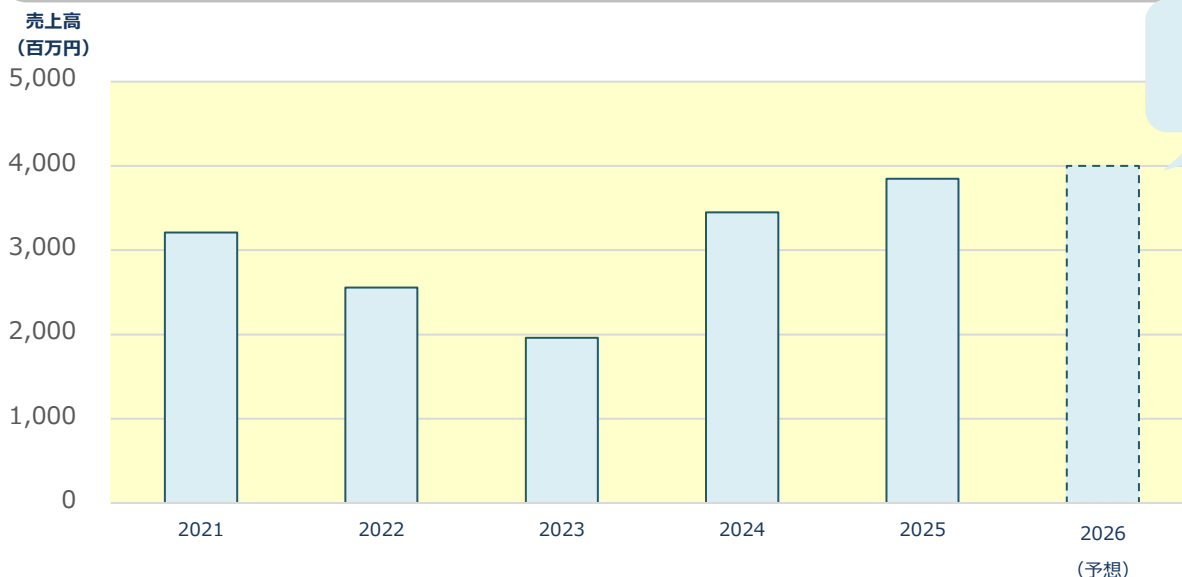
- 引き続き、ファインケミカル製品およびハードディスク用精密研磨剤の拡販を見込む



精密研磨剤 (Neopolish)

山口精研工業

- ハードディスク (HDD) 用アルミ基板を中心に鏡面研磨剤を開発
- 事業領域：HDD、SAWフィルター用ウエハー、パワー半導体、ブルーガラス等
- 事業環境：半導体市場は2030年までに1兆6,000億ドル（2025年比で約2倍）規模に達する可能性（マッキンゼー&カンパニー、世界半導体市場統計）
データセンターの建設が増え、データ保存に使われるHDDの需要が引き続き増
- 供給能力の拡大：2023年11月に第2工場完工。現在は第1工場の配置最適化も含め、全体の能力の引き上げ中



3期連続過去最高
を見込む



- HDD用アルミ基板
- SAWデバイス用基板

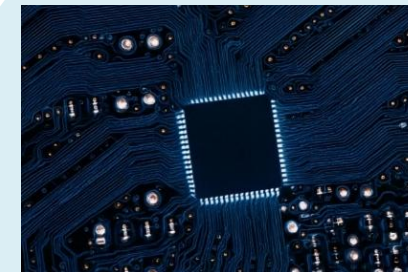
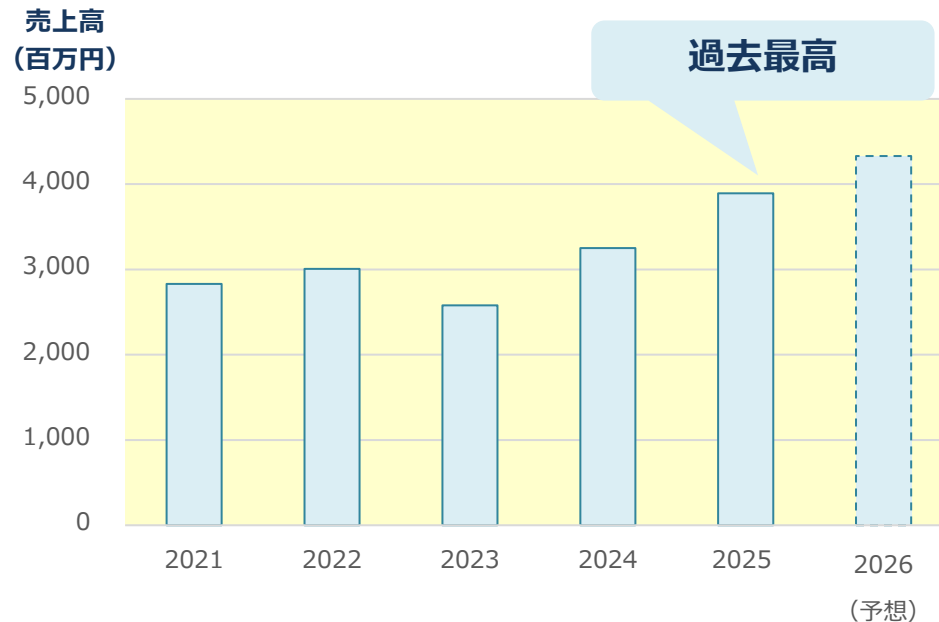
ファインケミカル製品



高圧化学工業

 : 一部サステナビリティ製品あり

- ファインケミカル製品(中間素材)を高度な品質管理体制下で受託製造
- 事業領域：データセンター、半導体、IC（集積回路）、生成AI、電子部材
- 事業環境：データセンターサービス世界市場は2030年に1兆7,200億ドル（約255兆円）に到達し、2025年度比で2倍超の市場規模となる見通し（JEITA見通し）
- 耐腐食性高圧反応設備（ハステロイ製）で高付加価値化
- 水島工場に半導体関連先端材料の生産設備完工、認証取得後、2026年度後半からの順次量産開始予定



■ 半導体関連先端材料

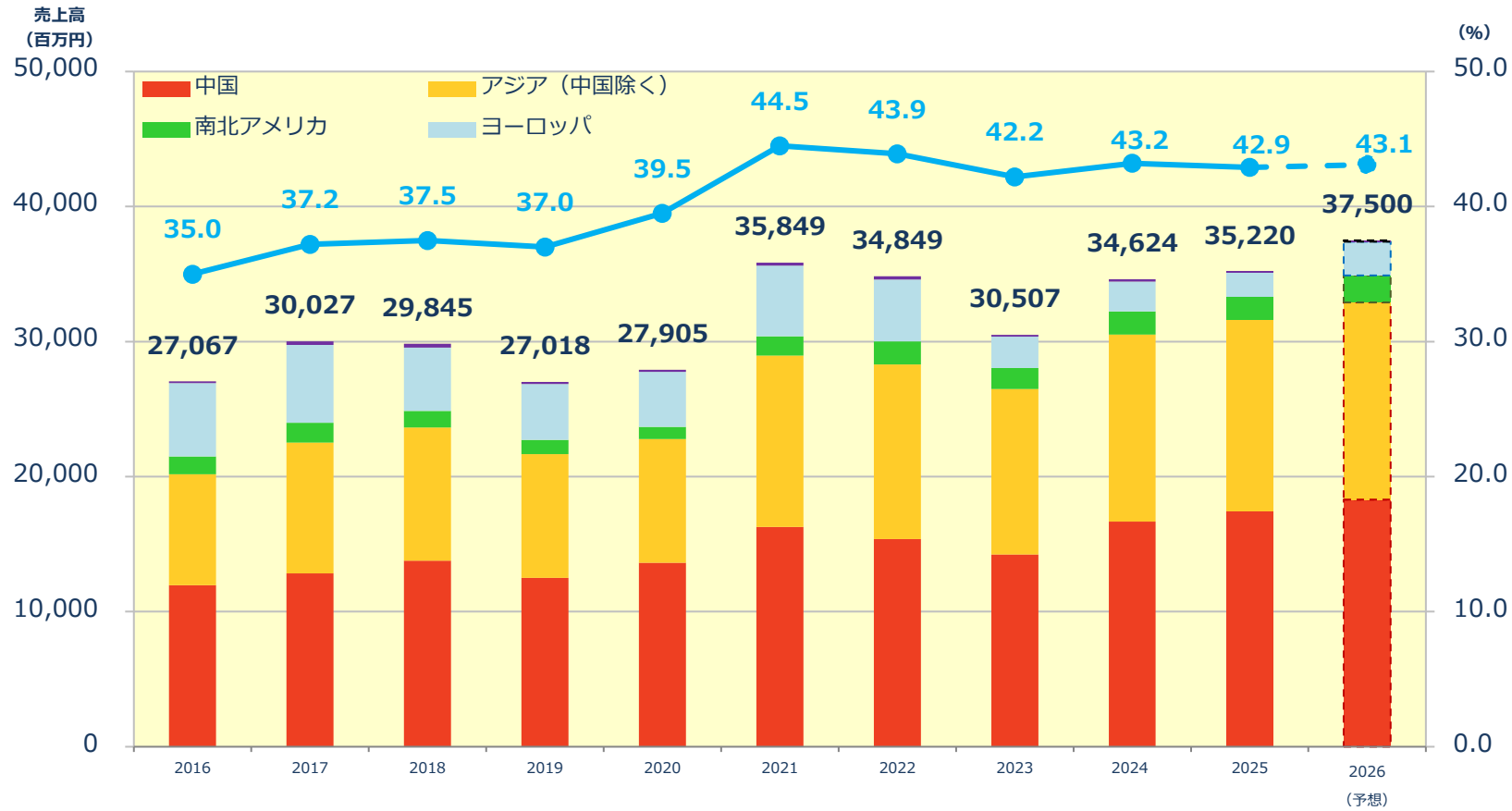
海外売上高・比率 推移

2025年度実績

- 海外での紙力増強剤の価格競争が激化したものの、中国での粘着・接着剤用樹脂の販売が堅調に推移したため、海外売上高は増加

2026年度見通し

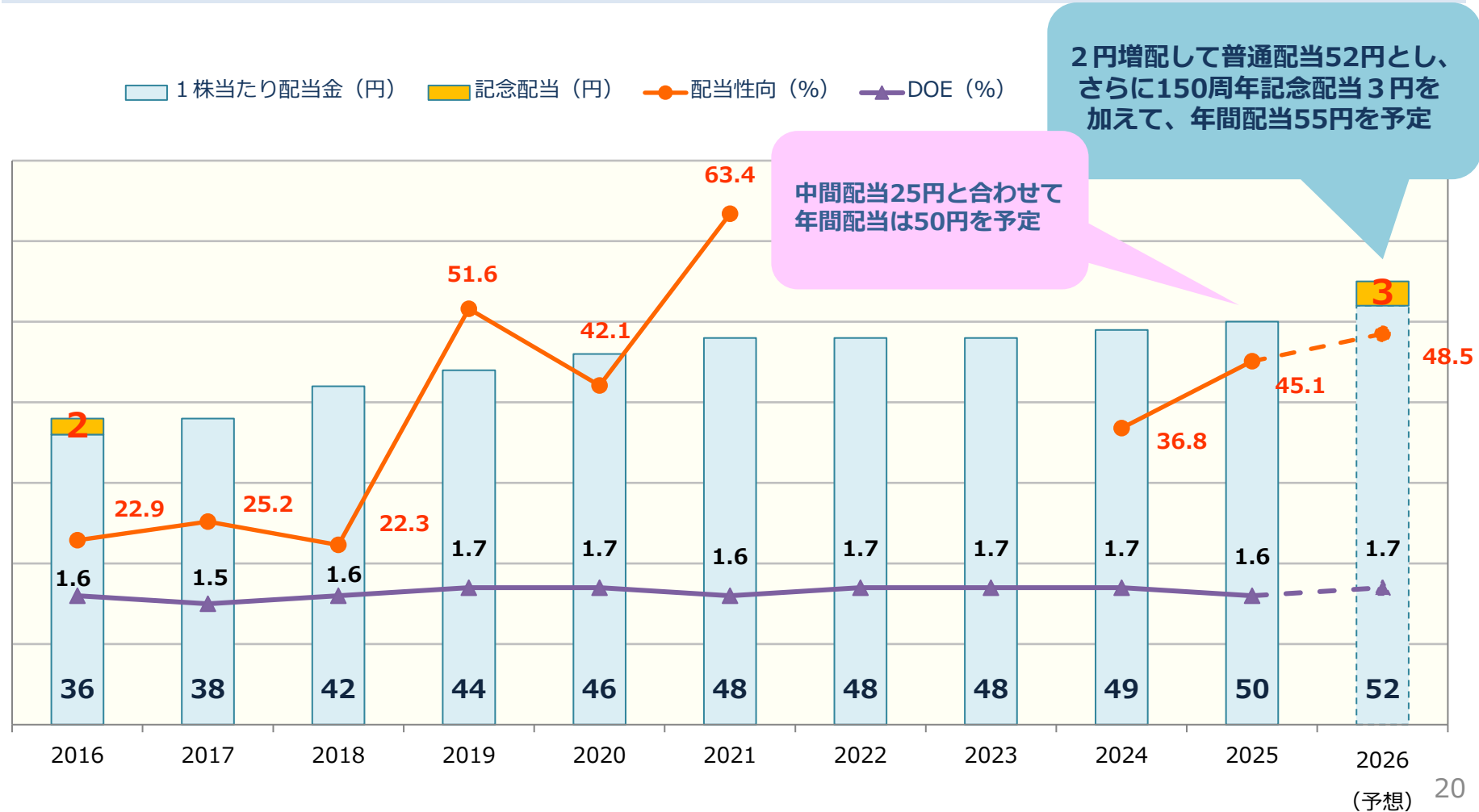
- 粘着・接着剤用樹脂の拡販がけん引し、海外売上高は375億円で過去最高となる見込み



配当金の推移

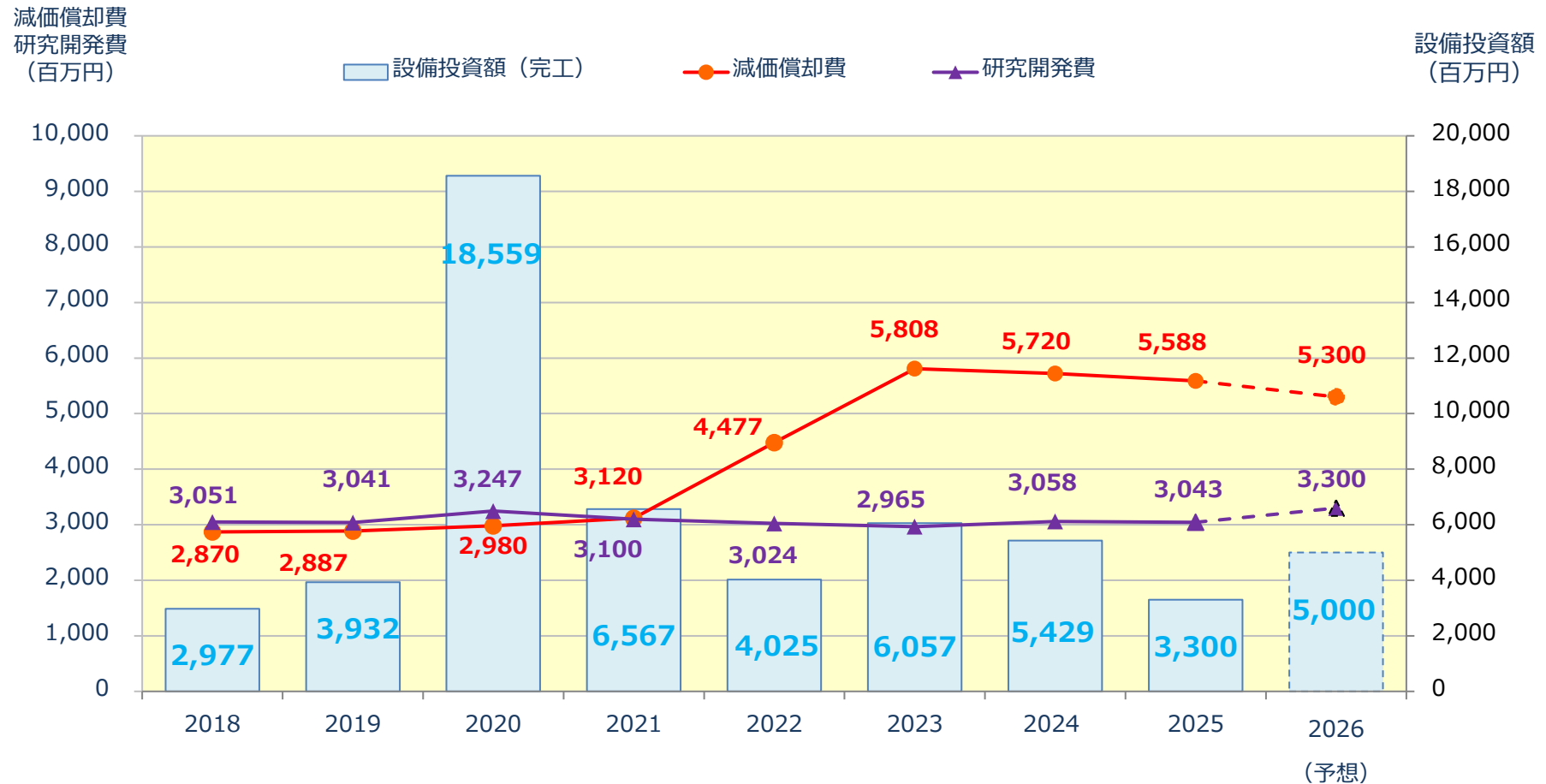
基本方針

安定的かつ継続的な配当を維持しつつ、積極的な株主還元策に取り組む



設備投資および研究開発費

2024年度で成長事業への大型投資案件が一巡し、設備投資水準は減価償却費の範囲内となる見通し



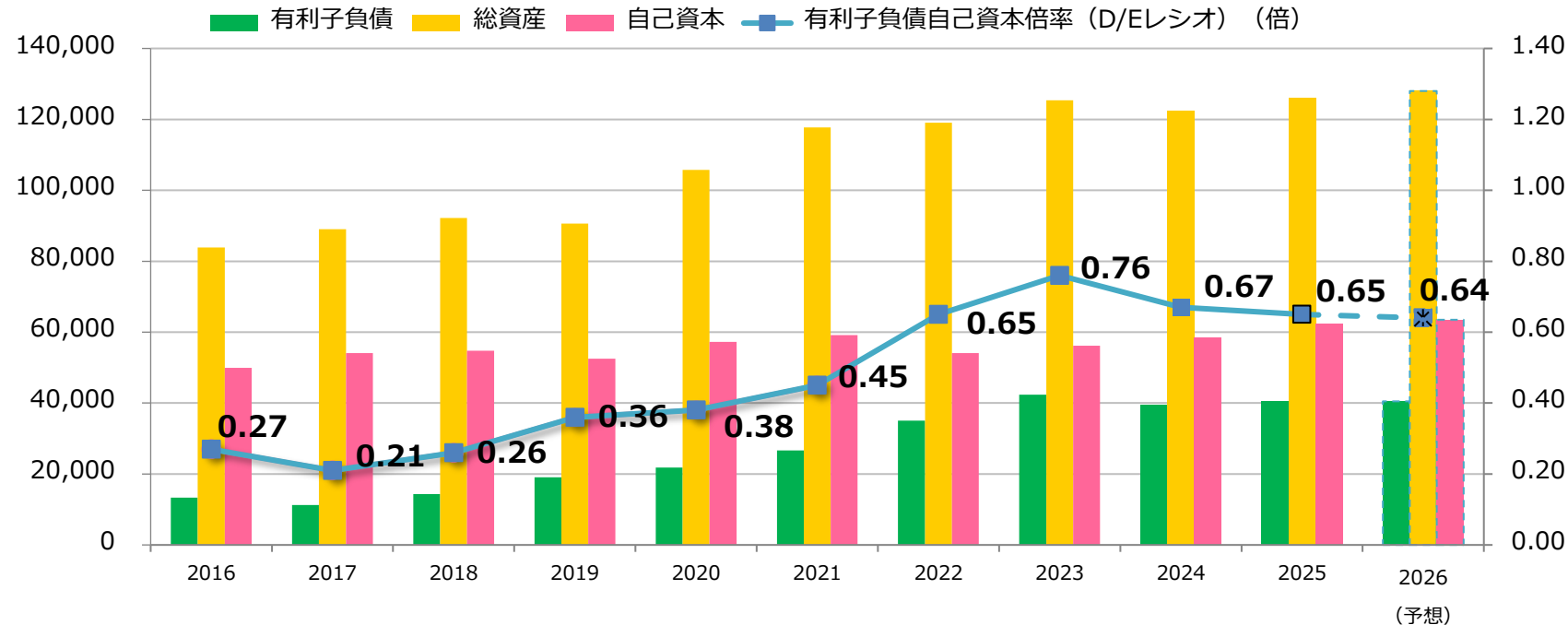
総資産・有利子負債推移

(百万円)

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026 (予想)
有利子負債	13,300	11,269	14,349	19,045	21,789	26,680	35,052	42,388	39,381	40,624	40,500
総資産	83,898	89,019	92,174	90,600	105,757	117,739	119,035	125,418	122,297	126,059	128,000
自己資本	49,915	54,123	54,747	52,546	57,228	59,184	54,082	56,134	58,475	62,357	63,500
自己資本比率 (%)	59.5	60.8	59.4	58.0	54.1	50.3	45.4	44.8	47.8	49.5	49.7
有利子負債自己資本倍率 (D/Eレシオ) (倍)	0.27	0.21	0.26	0.36	0.38	0.45	0.65	0.76	0.67	0.65	0.64

* 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）を2018年度の期首から適用しており、2017年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(百万円)



トピックス①

Topics

- ・世界最大級かつ最も信頼されるサステナビリティ評価機関の一つであるEcoVadis社による評価にて「コミットメント・バッジ」を取得
- ・SPT①CO2排出量、SPT②サステナビリティ製品の連結売上高指数、ともに達成見込み



トピックス②

荒川化学が提供する価値

「Pino Fleur® (ピノフルール)」

女性のための、“整う”お守りサプリメント



- ・ 松葉抽出物により、
心と身体の健康とめぐりをサポート



「EcoRosin® (エコロジン)」

畑まるごと元気に



- ・ 収量の向上や猛暑などの
環境ストレス耐性の強化などに
効果がある農業資材



トピックス③

12 つくる責任
つかう責任



15 陸の豊かさも
守ろう



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



荒川フォレストテクノロジーベトナム社設立

- ・ 事業内容 : 生松脂の売買、ロジンおよびテレピン油の売買等
- ・ パートナー : 明和産業株式会社との合併



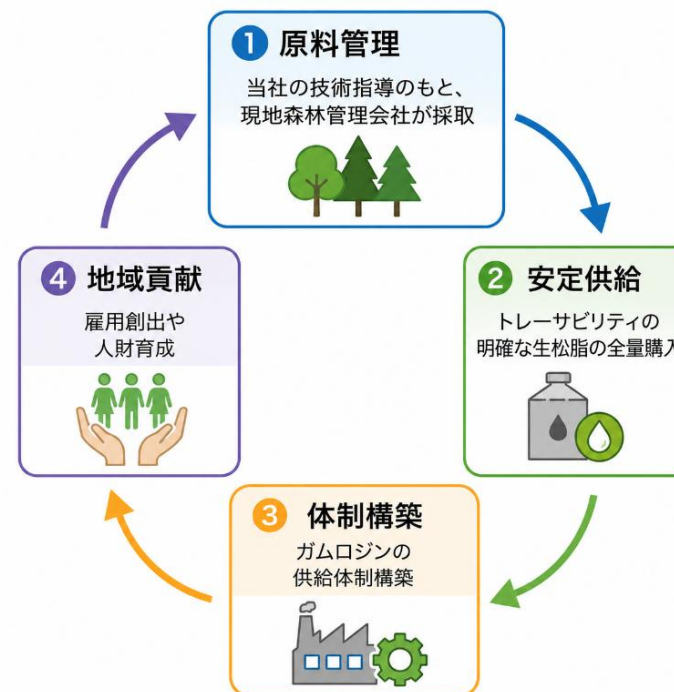
実現できること

- ・ 生松脂の持続的な調達
- ・ ロジンのトレーサビリティの明確化
- ・ テレピン油の供給

「サステナビリティセンター」として



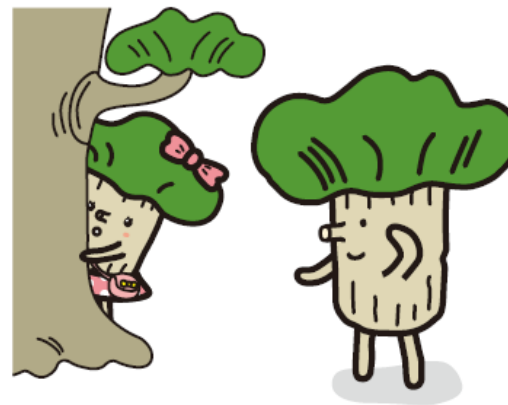
開所式 (2026年4月1日設立)



見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

荒川化学工業株式会社



2026年度－2030年度

第6次

中期5カ年 経営実行計画

説明資料

V-ACTION *for the Future*

～心と技を磨き いのちと社会に輝きを～

15th 

荒川化学工業株式会社
ARAKAWA CHEMICAL INDUSTRIES, LTD.

2030年のありたい姿	P.3
第6次中計の概要	P.4
第5次中計の振り返り【全体】	P.5
第5次中計の振り返り【セグメント別】	P.6
第6次中計の位置づけ	P.7
重要課題(マテリアリティ)とKIZUNA指標	P.8
中核方針	P.9
定量目標	P.10
定量目標達成に向けた主な施策	P.11
2030年度のセグメントの姿	P.12
セグメント別目標	P.13
成長戦略 機能性コーティング	P.14
成長戦略 製紙・環境	P.15

成長戦略 粘接着・バイオマス	P.16
成長戦略 ファイン・エレクトロニクス	P.17
ライフサイエンス領域での取り組み	P.18
資本効率の推移と中計目標	P.19
キャッシュアロケーション(5年累計)	P.20
株主還元方針(第6次中計期間)	P.21

2030年のありたい姿

当社は2026年11月に創業150周年を迎えます。

この節目に新たなスローガンを掲げ、ありたい姿の実現を目指します。

経営理念 体系図



V-ACTION for the Future

～心と技を磨き いのちと社会に輝きを～



2030年のありたい姿

ロジンをはじめとする天然素材を活かし、「つなぐ」技術の深化と新たな付加価値の創造に挑戦し続けることで、地球環境と社会の**持続可能な未来**に貢献する。

中計スローガンに込めた想い

第5次中計で掲げた「**V-ACTION**」の「5つの**V**」を継承し、未来に向けて価値創造に挑戦し続ける強い意志を表しています。

社員一人ひとりの意識やマインド(心)と、**技術やビジネスモデル(技)**を磨き上げ、当社グループの幅広い事業を通じ、より豊かで輝かしい未来社会の実現に貢献していく想いを込めております。

方向性(中核方針)

「2030年のありたい姿」の実現に向けて、**事業ポートフォリオ改革を加速**し、キャッシュ創出力の強化を
変革の軸として**生産性・資本効率の向上**を図り、中長期的な企業価値の最大化につなげていく。

アクション(施策)

成長・注力領域での事業拡大と、**構造改革(各事業の磨き直し)**で、営業利益70億円(2025年度業績比
+180%)の達成を目指す。

定量目標(2030年度)

事業の成長			資本効率の追求		株主還元の拡充※
連結売上高	連結営業利益	純利益	ROE	ROIC	配当性向
1,030億円	70億円	44億円	7%以上	5%以上	50%

※第6次中計期間中の配当については原則的に**累進配当**とし、積極的な還元を推進する。

第5次中計の振り返り【全体】

2025年度(中計最終年度) 営業利益

(目標) 35億円 ▶ (実績) 25億円



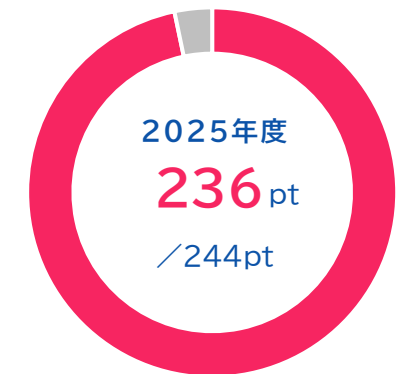
第5次中計策定時と比較して当社を取り巻く環境は大きく変化。2024年5月に最終年度の財務目標を引き下げ。組織風土面では、KIZUNA指標が定着し、事業面では、収益回復・生産拠点再編は進んだが、単体収益力と新規事業の育成に課題が残った。

KIZUNA経営

主な内容	主な成果	課題・次のステップ
安全文化醸成・働きがいと生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> 安全文化醸成、各種認定取得 働きがいと生産性向上に繋がる施策や制度導入 独自指標「KIZUNA指標」の導入と定着 	<ul style="list-style-type: none"> 安全文化醸成のグループ展開 さらなるエンゲージメント向上 KIZUNA指標達成の実行力強化
事業ポートフォリオ改革	<ul style="list-style-type: none"> 生産拠点統廃合 将来需要に備えた生産能力の先行増強 ライフサイエンス事業立ち上げ 	<ul style="list-style-type: none"> 『次の柱』育成 事業の再構築
ESG サステナビリティ	<ul style="list-style-type: none"> 化学業界初の※SLBのSPTsの達成見込み <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>SPT① CO₂排出量30%以上削減(50%以上達成) SPT② サステナビリティ製品売上高指数25%UP</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 炭素利益率(ROC)の導入
業績(収益力・計数目標)	<ul style="list-style-type: none"> 電子部材関連材料の販売回復、成長加速 複数子会社で過去最高益を達成 	<ul style="list-style-type: none"> 計数目標達成 単体の収益力

KIZUNA指標 達成率

達成率 97%



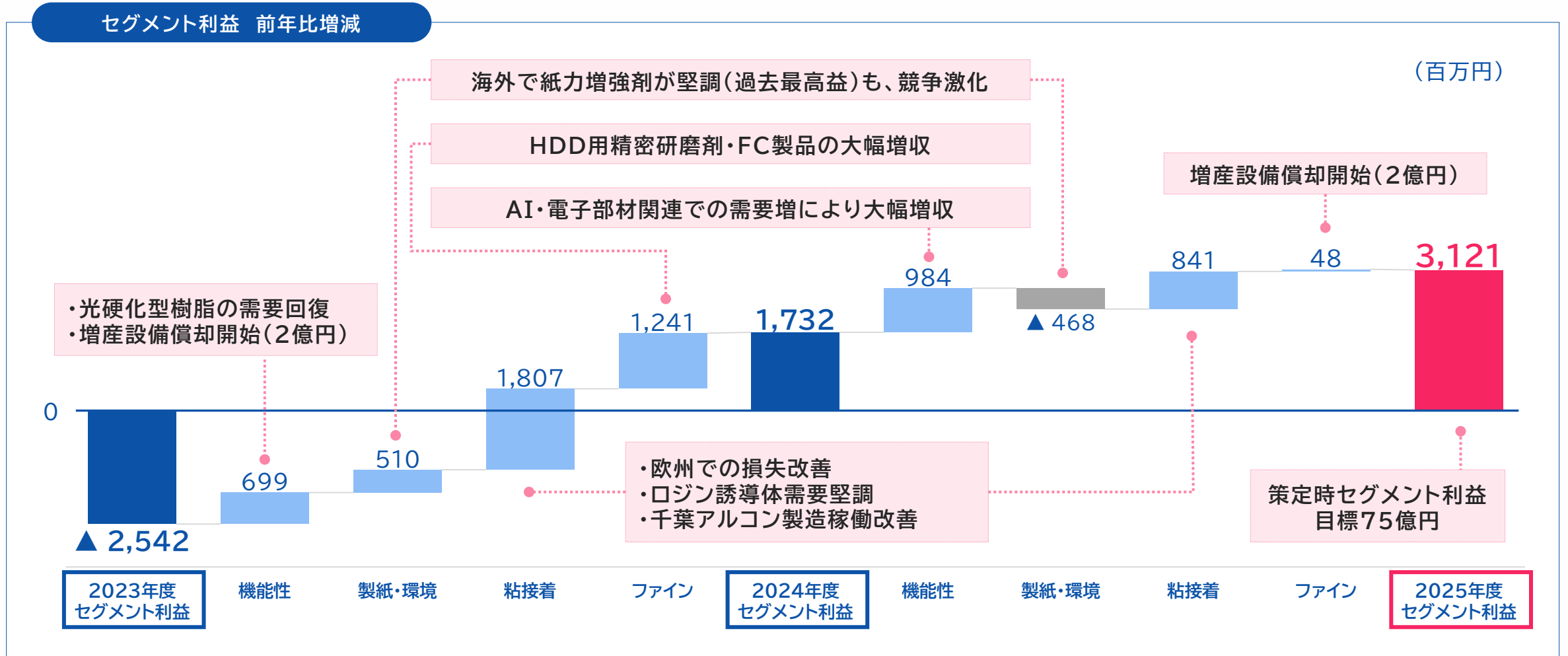
(策定時目標280pt)

達成	<ul style="list-style-type: none"> 従業員(イキイキタイプ)50%以上 サステナビリティ製品売上指数+27% CO₂排出量△56%(第三者認証待ち) 等
未達	<ul style="list-style-type: none"> 休業災害ゼロ 営業利益率 NEXT事業「そだてる」への移行件数 等

※SLB…サステナビリティ・リンク・ボンド、SPTs…サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット。SLBの発行条件を決定する発行体の経営戦略に基づく目標

第5次中計の振り返り【セグメント別】

電子材料領域では、光硬化型樹脂やファインケミカル(FC)製品は過去最高売上を達成。さらに将来を見据えた生産能力増強投資を実施。セグメント利益は成長軌道に回帰。生産拠点再編や収益改善施策の効果も表れてきている。



第6次中計の位置づけ

第6次中計は、第5次中計で掲げた2030年の「ありたい姿」の実現を目指す。

第5次中計

2021年度－2025年度

V-ACTION for sustainability

「KIZUNA 経営」の実践を進めるとともに、その取り組みを独自の「KIZUNA 指標」により可視化・評価し、組織全体の価値向上を図った。

5つのV

- ・Vector 方向・進路(サステナビリティ)
- ・Value 価値(企業価値)
- ・Variety 変化・多様性(中計最終時の姿)
- ・Venture 冒険的事業(みつける)
- ・Vitality 活力(働きがいと生産性の向上)

第6次中計

2026年度－2030年度

V-ACTION for the future

～心と技を磨き いのちと社会に輝きを～

第5次中計で掲げた「**V-ACTION**」の「5つの**V**」を継承し、未来に向けて価値創造に挑戦する。

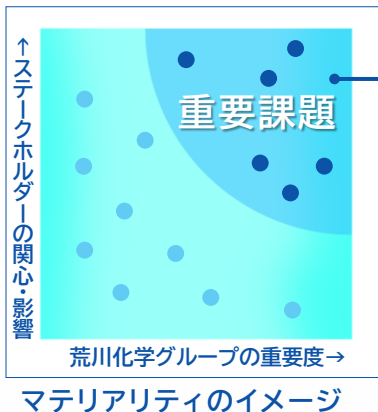
継承

5つのV

- ・Vector 方向・進路(サステナビリティ)
- ・Value 価値(企業価値)
- ・Variety 変化・多様性(中計最終時の姿)
- ・Venture 冒険的事業(みつける)
- ・Vitality 活力(働きがいと生産性の向上)

重要課題(マテリアリティ)とKIZUNA 指標

中長期的な企業価値向上に向け、重要課題を再編成し、
経営環境の変化への対応力と施策の実効性を高めるため、KIZUNA 指標に紐づけて取り組む。



重要課題(6つの取り組み)		対応するKPI ※1 KIZUNA 指標(独自指標)	対応する ESG	対応する SDGs
価値創造に 直結する マテリアリティ	事業ポートフォリオ改革の加速	<ul style="list-style-type: none"> 投下資本利益率(ROIC) 5% 炭素利益率(ROC) 150 千円/CO₂t CCC短縮日数指数 Δ20% ※2 	G	
	資本効率および生産性の向上			
	グローバル競争力の強化	<ul style="list-style-type: none"> 海外売上成長率 +30% 	ES	
実行を支える 基盤 マテリアリティ	安全・品質・コンプライアンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> 重大事故・重大インシデント ゼロ 	G	
	人財・実行力の強化	<ul style="list-style-type: none"> 一人当たりの付加価値 +25% イキイキ指数(エンゲージメント) 25% ※3 	S	
	環境・資源循環への対応	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ製品売上成長率 +20% CO₂排出量の削減 Δ50% ※4 	EG	

※1 増減比率は2025年度比。ただし、CO₂排出量のみ2015年度比。

※2 CCC・・・キャッシュ・コンバージョン・サイクル。棚卸資産回転日数+売上債権回転日数-仕入債務回転日数。

※3 は「単体」、※4は「単体+国内100%子会社」、その他のKPIについては「連結」の数値を使用する予定です。

事業ポートフォリオ改革を加速し、キャッシュ創出力の強化を通じて生産性および資本効率を向上させ、創出した経営資源を研究開発や人財等へ再配分し、中長期的な企業価値の最大化を目指す。

事業ポートフォリオ改革の加速		
集中投資		電子材料(電子部材、データセンター・AI関連材料、半導体関連材料等)およびライフサイエンス(ヘルスケア、アグリ、コスメ等)への重点資源投入
グローバル展開		「かせぐ」事業の再構築と、海外市場における成長機会の追求を両立
環境経営の深化		炭素利益率(ROC)※を新たな業績指標として導入し、収益性向上と脱炭素を連動

※ ROC = EBITDA ÷ CO₂排出量



生産性および資本効率の向上		
規律ある資源配分		成長性・収益性・ROICに基づく事業評価による低収益・非中核事業の継続的な見直し
企業体質の強靱化		プロセス変革(全社横断プロジェクト)による生産性とキャッシュ創出力の向上(PBR向上)

定量目標

キャッシュ創出を変革の軸に据え、成長・効率・還元の好循環を確立し、持続的な成長を実現する。
第6次中計期間においては、通過点としてROE7%、ROIC5%の達成を目指す。

	第5次中計	第6次中計	
	2025年度 実績	2028年度 (3年目)	2030年度 (最終年度)
連結売上高	821億円	930億円	1,030億円
連結営業利益	25億円	50億円	70億円
EBITDA	80億円	92億円	105億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	22億円	30億円	44億円
ROE	3.6%	5%以上	7%以上
ROIC ※	2.0%	3.5%以上	5%以上

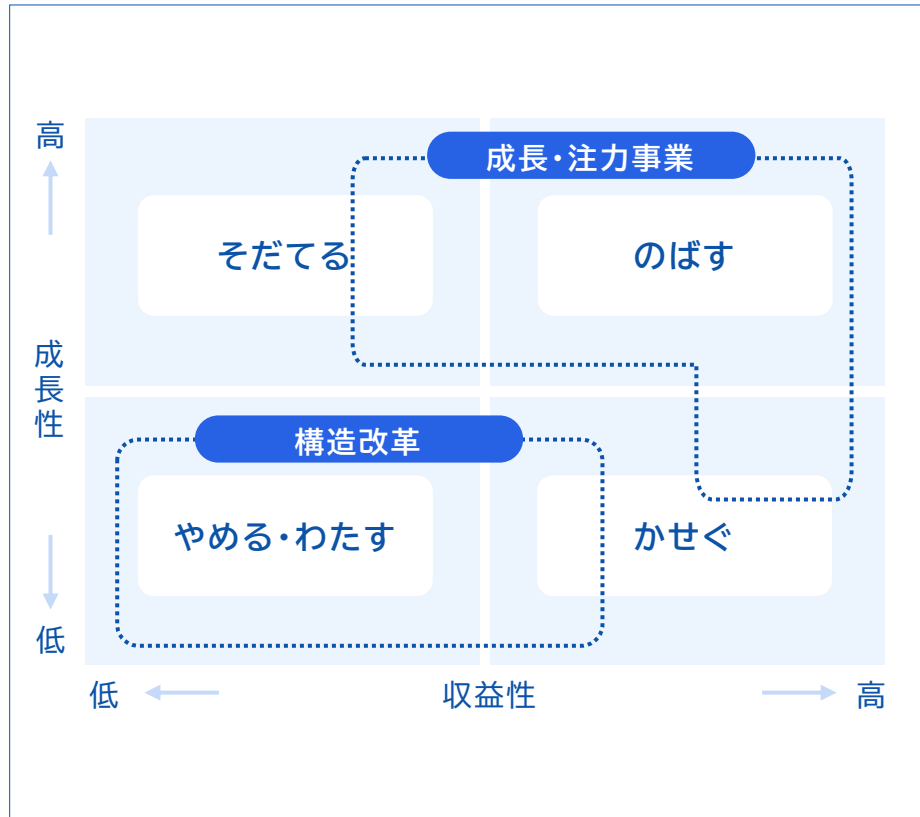
+180%

※ 税率は簡便的にいずれの年度も30%として試算しています。
当社の資本コスト(WACC)は4%前半で推移しており、金利上昇や有利子負債削減により2030年には5%程度になると推定しています。






定量目標達成に向けた主な施策

成長・注力領域での事業の拡大と、構造改革(各事業の磨き直し)により、
営業利益70億円(2025年度業績+180%)の達成を目指す。

事業ポートフォリオ



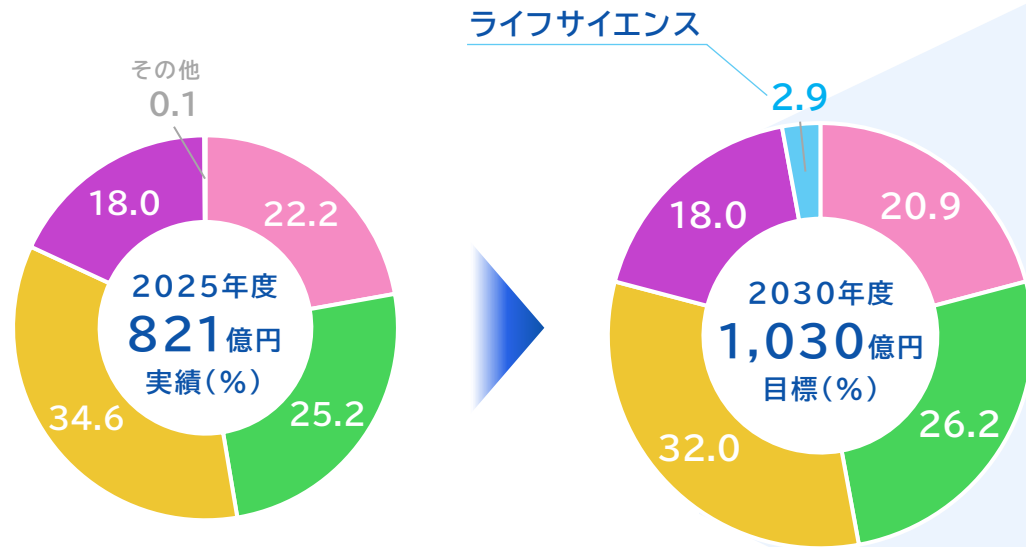
主な施策

成長・注力事業		増益額20億円以上
	<ul style="list-style-type: none"> 電子部材 データセンター・AI関連材料 半導体関連材料等 	電子材料領域の事業拡大 (増益額+12億円以上)
	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスケア アグリ コスメ等 	ライフサイエンス領域の事業化加速と収益貢献化 (増益額+3億円以上、現状△1億円→2億円)
	<ul style="list-style-type: none"> 板紙用紙力増強剤 水素化石油樹脂 ロジン系樹脂等 	海外市場における成長機会の追求 (増益額+5億円以上)
構造改革		増益額20億円以上
	<ul style="list-style-type: none"> 水素化石油樹脂 製紙用薬品 	再構築対象事業の生産プロセス変革等 抜本的な収益性向上
	<ul style="list-style-type: none"> 低収益、非中核事業 	キャッシュ創出力の強化を軸にした オペレーションプロセス変革と間接業務の生産性向上

2030年度のセグメントの姿

電子材料およびライフサイエンスの成長・注力領域での事業拡大と、既存事業の構造改革を両輪で推進。
第6次中計期間に、ライフサイエンス事業を5つ目のセグメントの規模感にスケールアップを実現する。

セグメント別 売上高構成と製品一覧



機能性コーティング

光硬化型樹脂 熱硬化型樹脂 印刷インキ用樹脂
塗料用樹脂等



製紙・環境

紙力増強剤 サイズ剤 新規水系ポリマー等



粘接着・バイオマス

水素化石油樹脂 粘着・接着剤用樹脂 超淡色ロジン
合成ゴム重合用乳化剤等



ファイン・エレクトロニクス

精密部品洗浄剤・洗浄装置 低誘電ポリイミド樹脂
FC製品 電子材料用配合製品 精密研磨剤等



ライフサイエンス

ヘルスケア アグリ コスメ等



※事業拡大を目指す電子材料領域には機能性コーティング事業も含む

セグメント別目標

セグメント利益合計を約2.5倍(31億円→79億円)に拡大し、利益率3.8%から7.7%への引き上げを目指す。

(百万円)

		2025年度 (実績)	2028年度 (目標)	2030年度 (目標)
コーティング	売上高	18,206	19,800	21,500
	セグメント利益	2,203	2,500	2,800
	利益率(%)	12.1	12.6	13.0
製紙・環境	売上高	20,666	24,000	27,000
	セグメント利益	1,381	1,300	1,650
	利益率(%)	6.7	5.4	6.1
粘接着・バイオマス	売上高	28,435	31,700	33,000
	セグメント利益	△1,400	600	1,900
	利益率(%)	△4.9	1.9	5.8
ファイン・エレクトロニクス	売上高	14,748	17,000	18,500
	セグメント利益	895	1,200	1,400
	利益率(%)	6.1	7.1	7.6
ライフサイエンス	売上高	—	500	3,000
	セグメント利益	—	40	200
	利益率(%)	—	8.0	6.7
合計	売上高	82,135	93,000	103,000
	セグメント利益	3,121	5,640	7,950
	利益率(%)	3.8	6.1	7.7

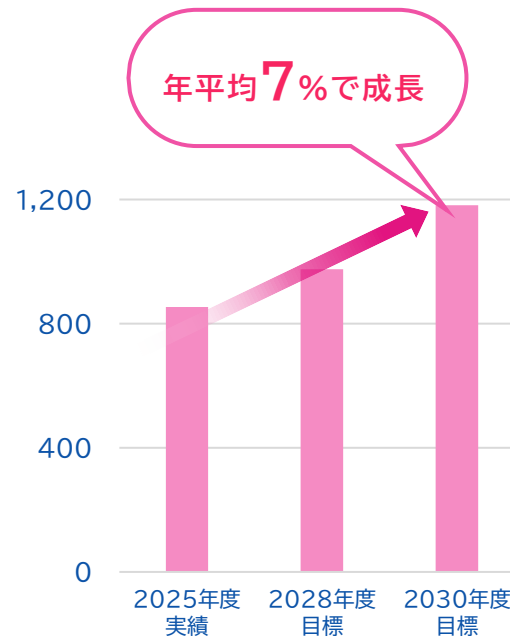
印刷インキ用樹脂の需要は減少も、成長・注力領域において、高機能製品群の拡大と採算性向上を徹底し、強固な事業基盤を構築する。

注力製品の成長見通し

ビームセット 売上高



アラコート 売上高



製品の特長と使用分野

ビームセット(光硬化型樹脂)

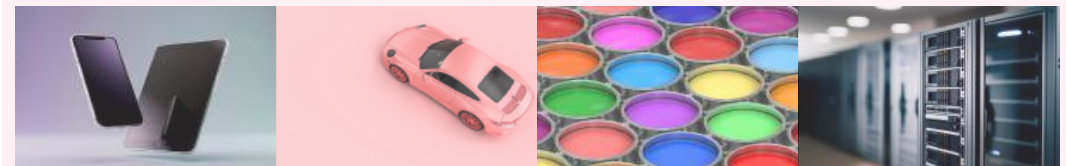
電子線(EB)や紫外線(UV)の照射により急速に硬化する材料

- ・電子材料領域(ディスプレイ、半導体製造工程、光学用途、サーバー関連部材)
- ・自動車関連
- ・印刷インキ・塗料

アラコート(熱硬化型樹脂)

低温・短時間で硬化し、フィルムに機能を付与するコーティング剤

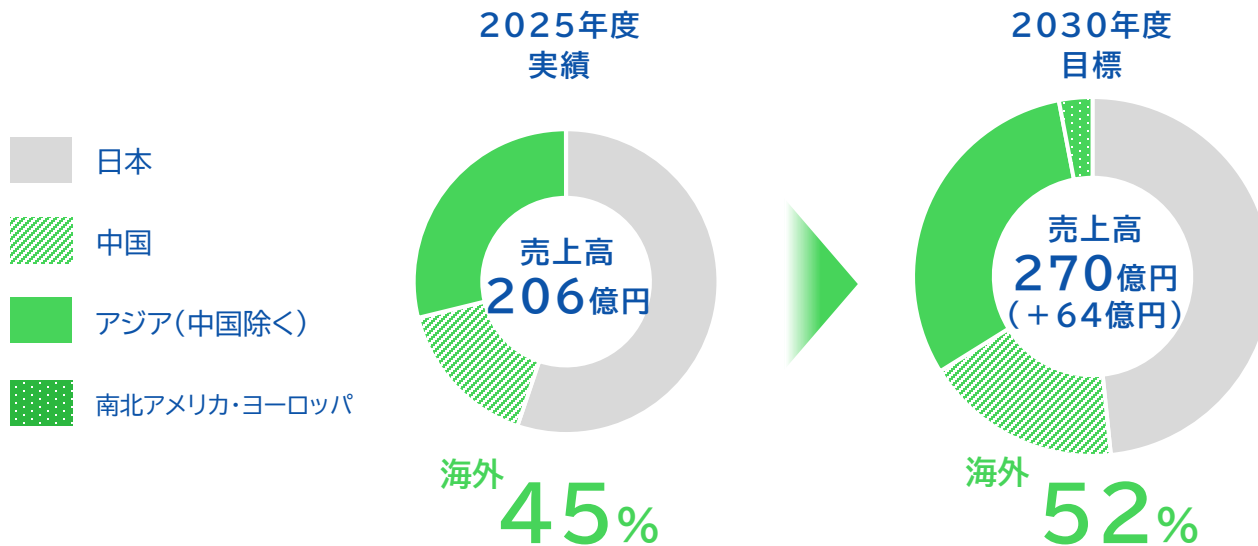
- ・アンカー剤(UVコーティング用、蒸着用)
- ・機能性コーティング剤(帯電防止、剥離・離型)
- ・包装・産業材料、電子・ディスプレイ向けフィルム用途



国内では、品種・生産拠点の統廃合と生産プロセス変革により、収益性の抜本的な改善を図る。
海外では、板紙向け紙力増強剤を軸にアジア・欧米への展開を加速し、売上拡大を目指す。

注力製品の成長見通し

海外の売上高比率



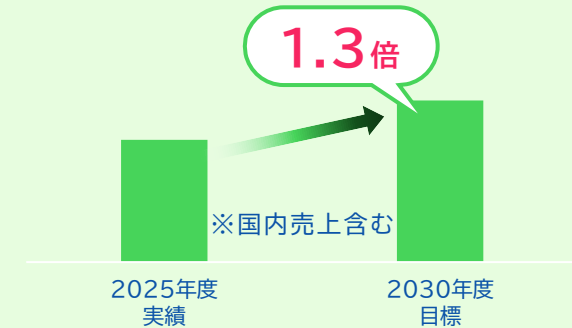
世界的な潮流



- ・PFAS(有機フッ素化合物)規制強化(PFASフリー需要)
- ・欧米の古紙リサイクル比率上昇(再生紙需要)

ポリストロン(紙力増強剤) の市場拡大

- ・段ボール・板紙向け用途の販売を拡大
- ・新たな地域(インド、欧米)にも進出
- ・リサイクルに貢献する紙力増強剤の投入



水系機能性材料の需要拡大

- ・紙包装の耐油性課題を解決
- ・紙素材への代替需要を背景に拡大



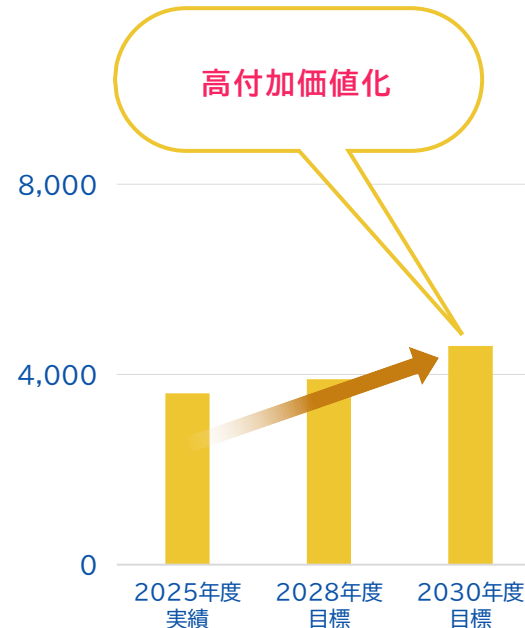
超淡色ロジンの高付加価値用途への展開を加速するとともに、千葉アルコン製造の稼働率向上により水素化石油樹脂の供給力を強化し、収益基盤の拡充を図る。

注力製品の成長見通し

アルコン 売上高



パインクリスタル 売上高



製品の特長と使用分野

アルコン(水素化石油樹脂)

無色透明・無臭で、耐熱性・耐候性・電気特性に優れる

- ・粘着剤、ホットメルト粘着・接着剤
- ・プラスチック改質剤

パインクリスタル(超淡色ロジン)

超淡色・高透明で経時安定性に優れるロジン誘導体

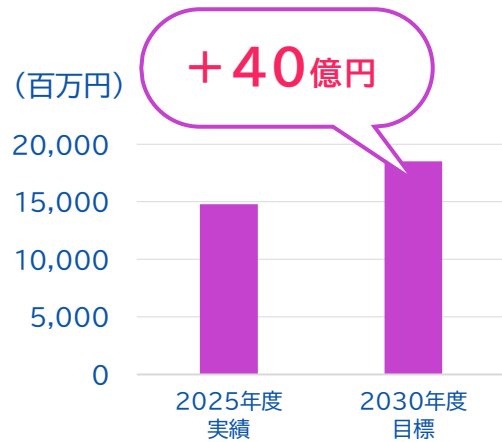
- ・鉛フリーはんだ用フラックス
- ・医療用貼付剤
- ・3Dプリンター関連部材、光学フィルム関連部材
- ・食品ラベル、包装材料
- ・建材・自動車向けテープ用粘着剤



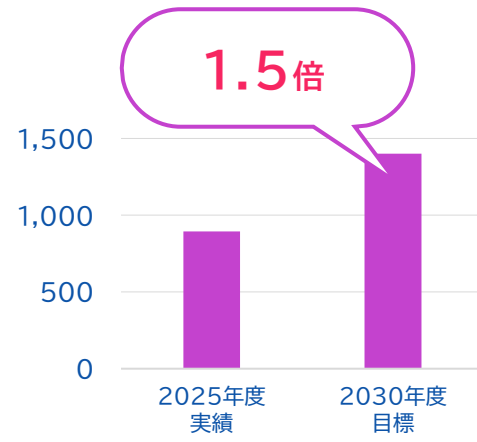
データセンターや半導体関連市場の将来の需要増加に素早く連携・対応し、さらなる事業拡大を目指す。

注力製品の成長見通し

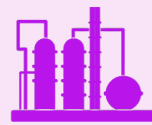
売上高



セグメント利益



- ・2023年 山口精研工業 第2工場 新設
- ・2024年 水島工場 FCプラント 新設



当社グループ製品の使用分野

半導体・電子部品分野

- ・前工程関連FC製品(受託含)
- ・精密部品洗浄剤、洗浄装置
- ・電子材料配合製品
- ・後工程関連材料

データセンター・通信分野

- ・精密研磨剤
- ・低誘電ポリイミド樹脂(バイオマス)

半導体市場規模の推移



ライフサイエンス領域での取り組み

2030年度 セグメント目標

売上高 30億円

セグメント利益 2億円



環境問題や健康志向の高まりを事業機会と捉え、当社が培ってきた天然資源活用の技術やM&A等により獲得した多様な知見を掛け合わせ、ライフサイエンス事業を中長期の収益の柱に「そだてる」。

事業の将来像

市場の変化(事業機会)

環境・働き方の変化

	・健康寿命、予防医療への意識の高まり
	・天然素材ニーズの高まり
	・高温や乾燥などの気候変動

当社の強みとソリューション

天然由来素材×生産技術×品質・評価

- ・松葉抽出物:うつ病様症状の改善、抗菌作用等
- ・微細藻類:脳機能と血管機能を支える健康成分等

→サプリメント、コスメ関連素材、抗菌・抗バイオフィルム、培養関連素材

- ・ロジン(松やに):収量・品質の向上、土壌改善
- バイオスティミュラント資材(農業)



成長イメージ

探索・市場投入・事業評価フェーズ

事業化フェーズ

2026年1月
「EcoRosin」販売開始
松やに由来の農業資材

2026年2月
ナチュラルウェーブ社子会社化
サプリ・化粧品販売の会社

2026年2月
「Pino Fleur」販売開始
松葉エキス配合サプリ

2026年3月
微細藻類事業譲受
SoPros社※より譲受

※筑波大発スタートアップ企業

~2025

2026

2028

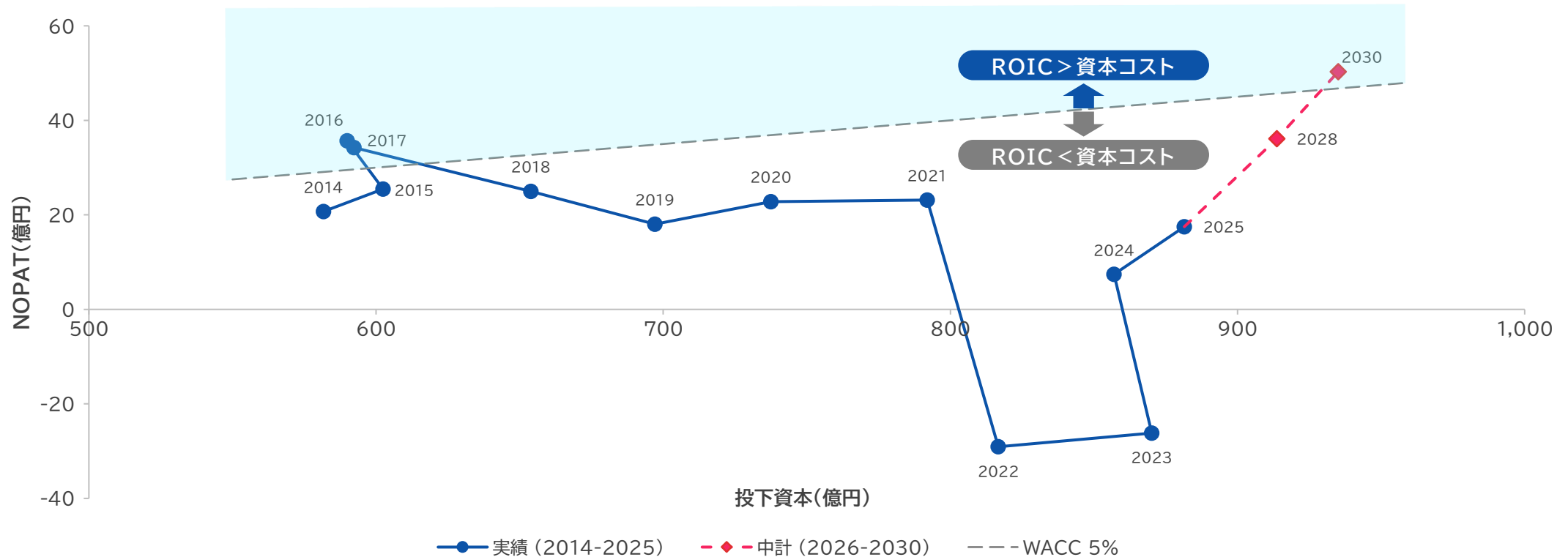
2030

売上高

資本効率の推移と中計目標(資本コストや株価を意識した経営の取り組み)

資本コスト(WACC)は4%前半で推移。金利上昇や有利子負債削減により2030年には5%程度になる推定。
赤字局面を経て再構築中。キャッシュ創出力も高め、ROIC5%超の達成へ。

NOPAT・投下資本推移



NOPAT(Net Operating Profit After Tax)…税引後営業利益(本業の稼ぐ力)

キャッシュアロケーション(5年累計)

第5次中計では将来需要に備えて生産能力を増強、
本中計では投資を成果につなげ、『次の柱』育成とキャッシュ創出強化へ。

CASH(億円)		第5次 実績	第6次 計画
IN	営業CF	139	340
	投資CF 資産売却等	60	20
	財務CF 資金調達	188	—
	合計	387	360

営業CFの主な増減要因

・営業利益増加	250億円
・運転資金増加	△80億円
・資本効率改善によるキャッシュ創出	30億円

成長投資の主な内容

5次 将来需要に備えた生産能力の先行増強

・電子材料関連	55億円
・水素化石油樹脂	47億円
・紙力増強剤(グローバル展開)	22億円
・新規事業開発(微細藻、ライフサイエンス)	13億円

6次 『次の柱』を育てるための重点投資

・生産能力増強投資(グローバル展開)	35億円
・成長・注力分野への戦略投資(M&A含)	20億円

OUT	定常投資	156	165
	成長投資	146	55
	株主還元	48	78
	有利子負債 返済	—	35
	その他	37	27

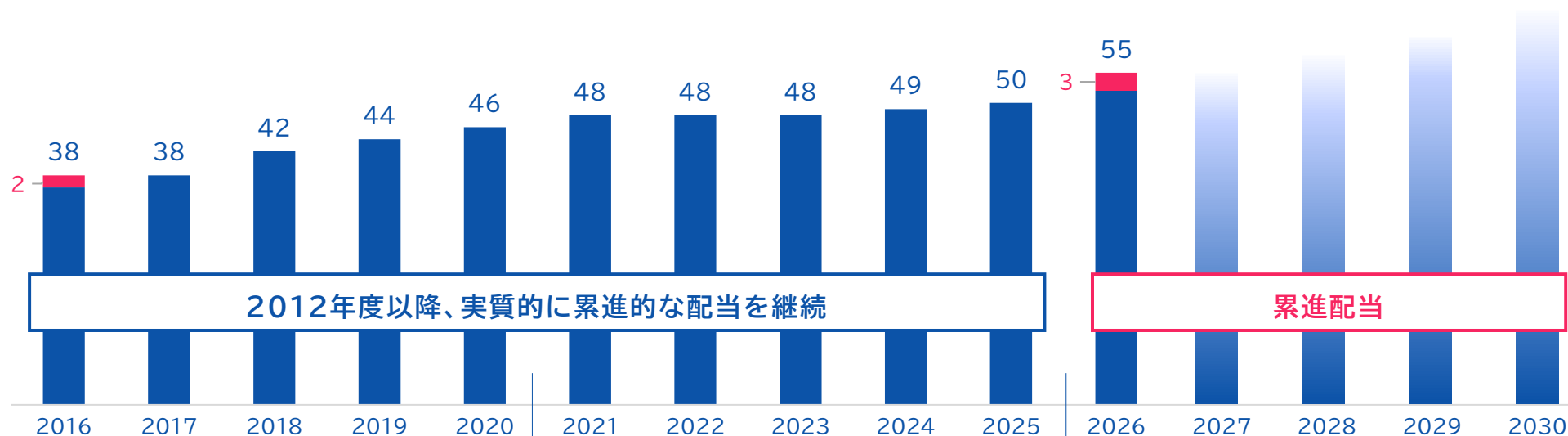
表中の数値は概数として記載しています。

株主還元方針(第6次中計期間)

資本効率とキャッシュ創出力を高める目標と連動し、第6次中計期間中の配当については、原則的に累進配当とし、配当性向目標については50%に引き上げ、積極的な還元を推進。

配当金推移と累進配当イメージ

■配当 ■記念配当 (円)



2012年度以降、実質的に累進的な配当を継続

累進配当

	第4次中計					第5次中計					第6次中計				
配当性向	30%目途					40%目標					50%目標				
PBR	0.84	0.72	0.51	0.45	0.46	0.36	0.37	0.41	0.37	0.40	PBR 1倍以上に道筋				



見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、
記載された将来計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

MEMO

